

第29回 遠州灘沿岸侵食対策検討委員会

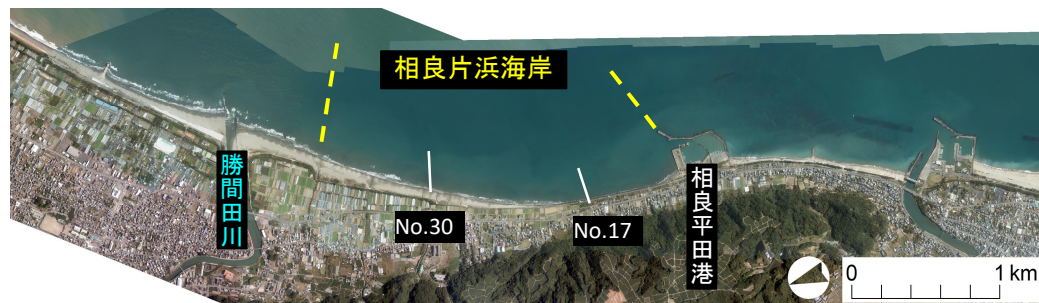
資料集

令和8年3月11日
静岡県

浜松五島海岸（天竜川河口右岸側）
（令和7年11月21日撮影）

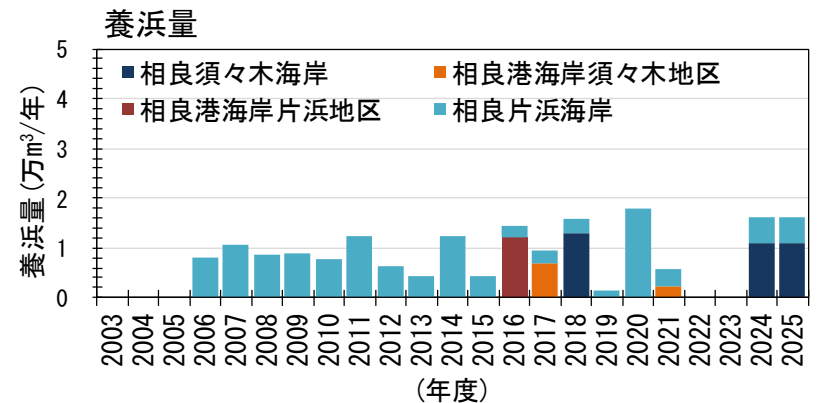


●対象範囲拡大



●これまでの施工実績（相良海岸）

緊急的対策の計画
 継続して実施するものはなし

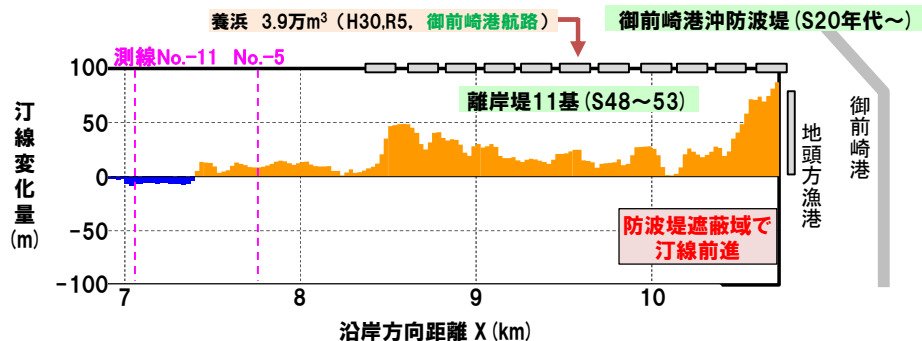


※養浜材は相良港、御前崎港浚渫土砂等

■汀線変化

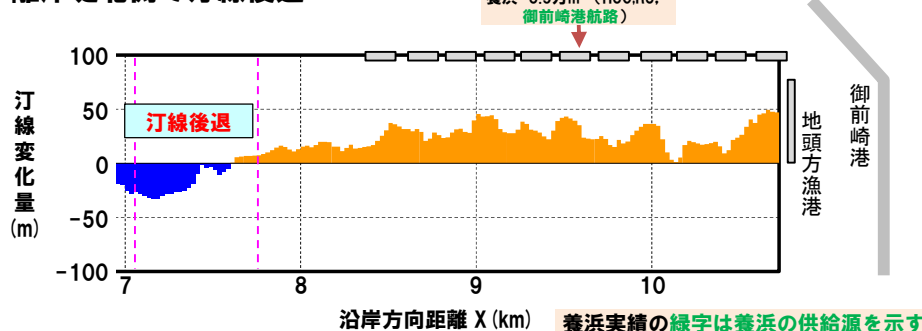
1995 (H7) 年2月～2025 (R7) 年11月（30年間）

・御前崎港防波堤遮蔽域、離岸堤背後の一部で汀線前進



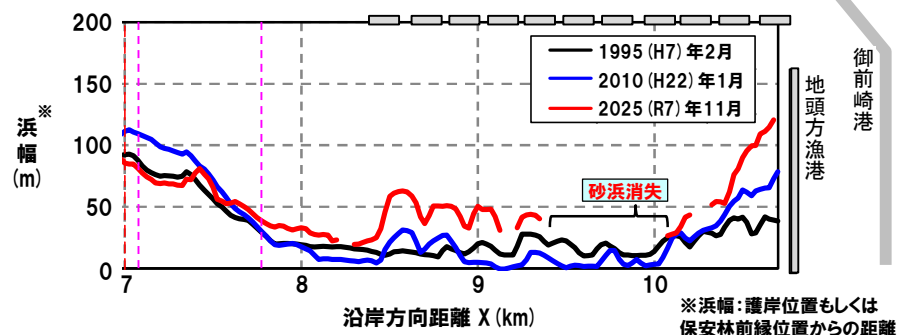
2010 (H22) 年1月～2025 (R7) 年11月（15年間）

・離岸堤北側で汀線後退



■浜幅の沿岸方向分布

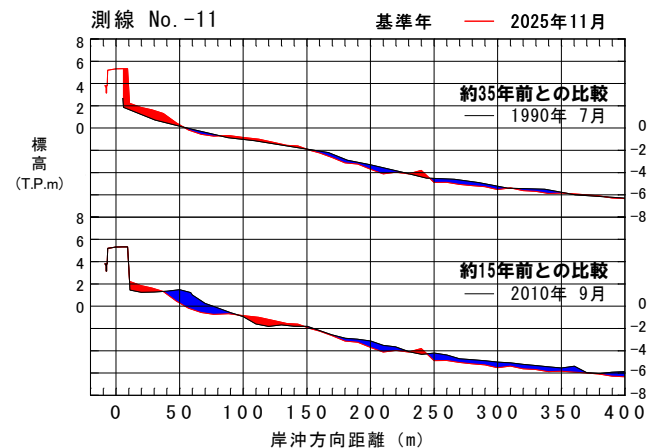
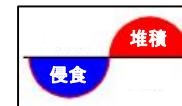
・離岸堤背後の一部で砂浜消失



■海浜断面変化

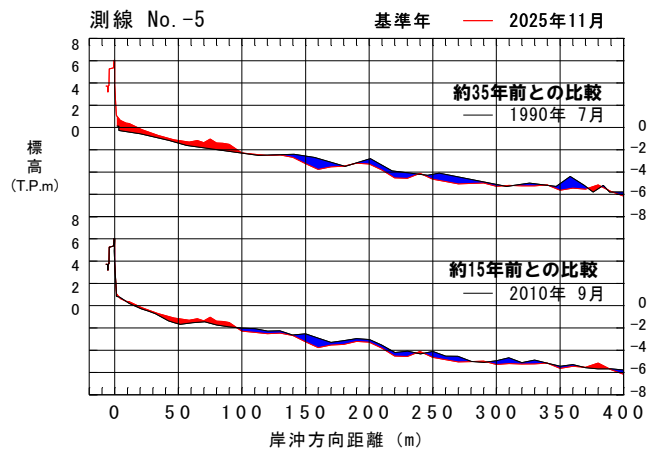
No.-11（砂浜が残っている地点）

・近年は汀線付近でやや侵食傾向



No.-5（砂浜些少地点）

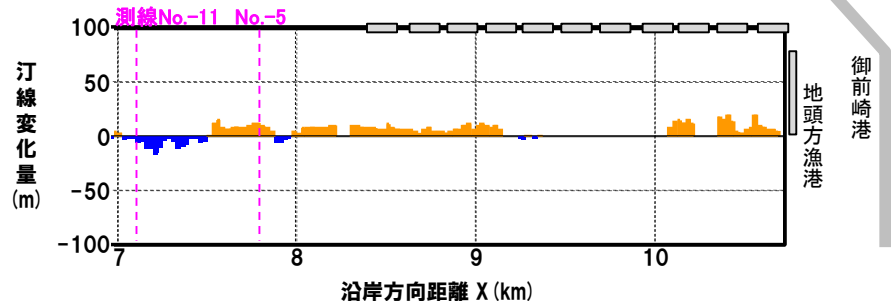
・水中部はT.P.-3m以浅で堆積、T.P.-3m以深で侵食



■汀線変化

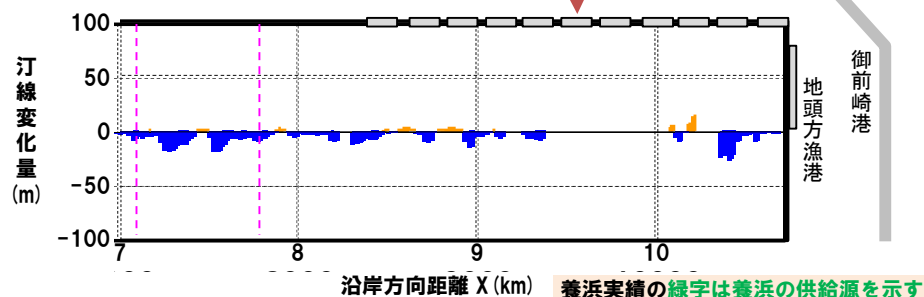
2023 (R5) 年11月～2024 (R6) 年11月（1年間）

・全域で汀線変化が少ない



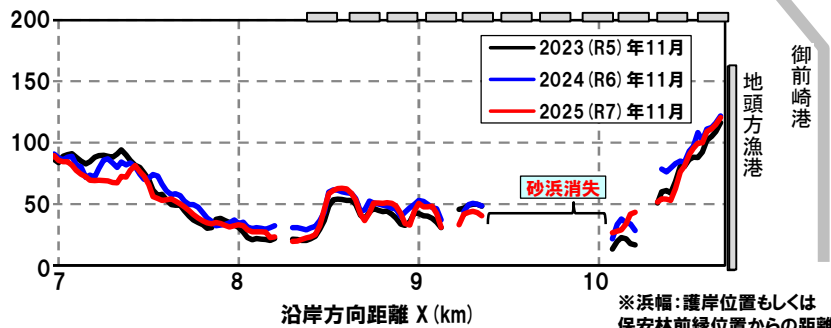
2024 (R6) 年11月～2025 (R7) 年11月（1年間）

・全域で汀線変化が少ない



■浜幅の沿岸方向分布

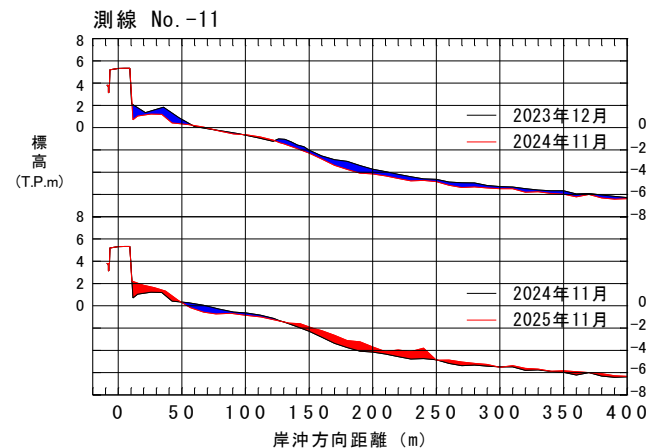
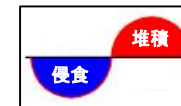
・離岸堤背後の一部で砂浜消失



■海浜断面変化

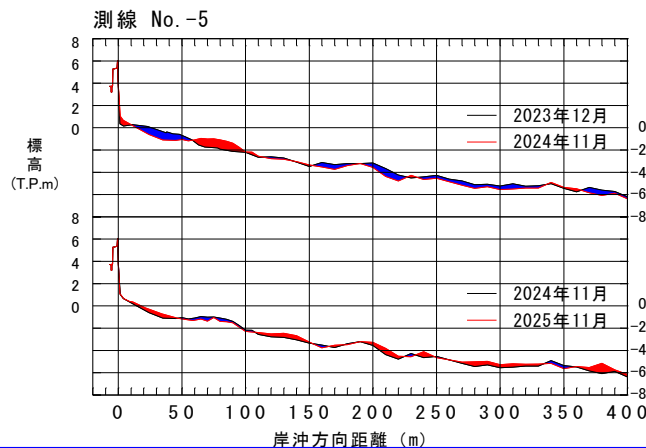
No.-11（砂浜が残っている地点）

・陸上部から水中部でやや堆積



No.-5（砂浜些少地点）

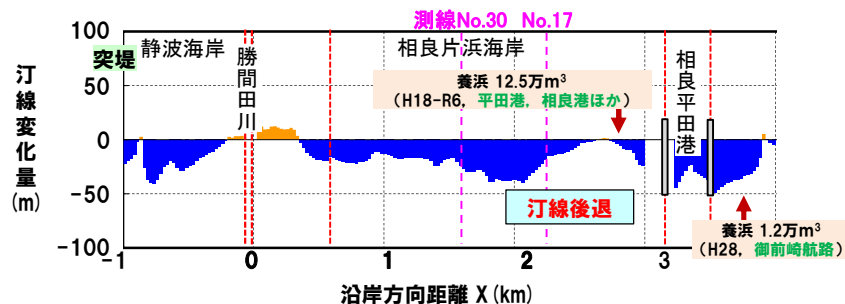
・陸上部から水中部でやや堆積



■汀線変化

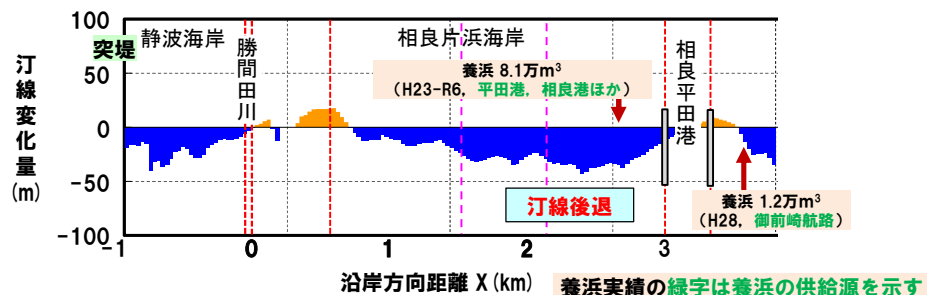
1995 (H7) 年2月～2025 (R7) 年11月（30年間）

- ・全域で汀線後退（勝間田川河口右岸を除く）



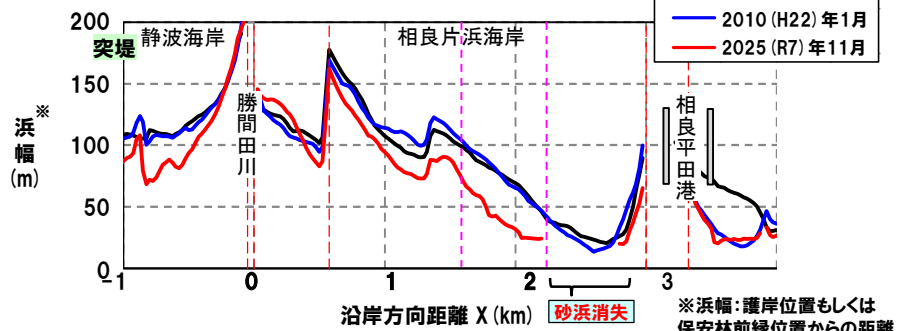
2010 (H22) 年1月～2025 (R6) 年11月（15年間）

- ・全域で汀線後退（勝間田川河口右岸を除く）



■浜幅の沿岸方向分布

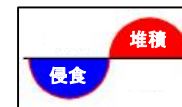
- ・相良片浜海岸の南側の砂浜が消失



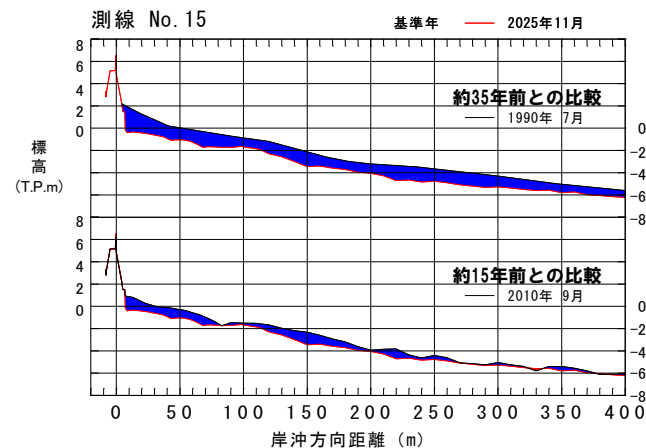
※浜幅：護岸位置もしくは保安林前縁位置からの距離

■海浜断面変化

No.15（砂浜がほとんど消失した区間）

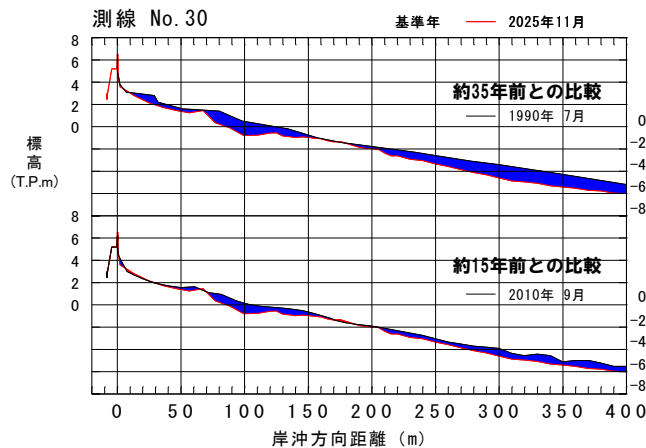


- ・汀線付近から沖合にかけて侵食



No.30（砂浜が残っている地点）

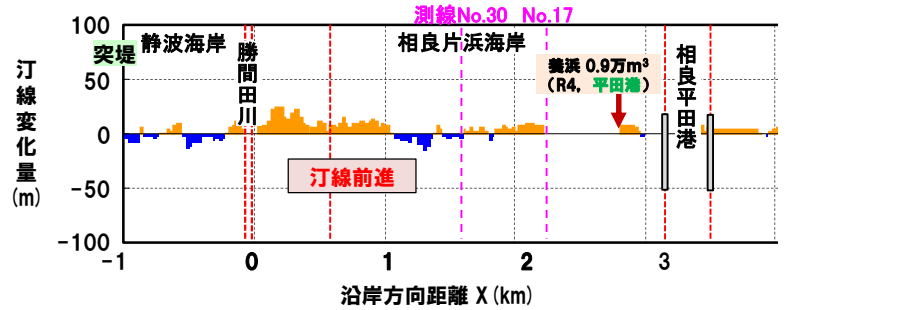
- ・近年は汀線付近から沖合いにかけて侵食



■汀線変化

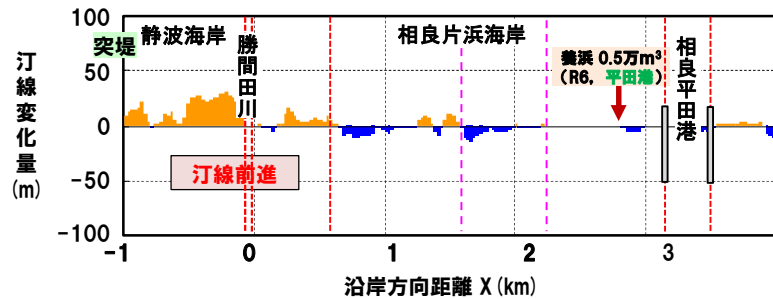
2023 (R5) 年11月～2024 (R6) 年11月（2年間）

- ・ 勝間田川河口右岸で汀線が前進



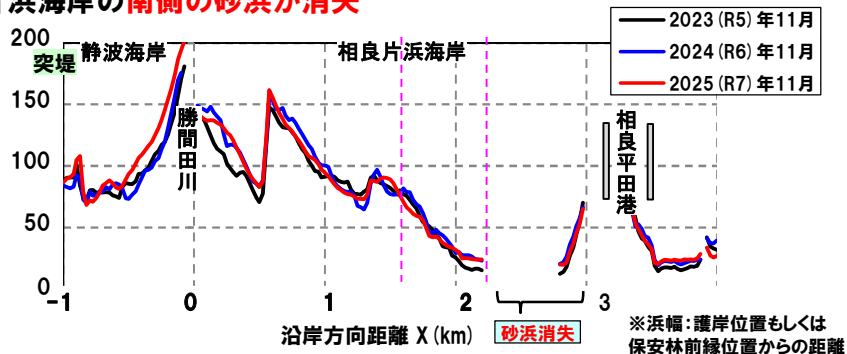
2024 (R6) 年11月～2025 (R7) 年11月（1年間）

- ・ 勝間田川河口右岸から静波海岸にかけて汀線が前進



■浜幅の沿岸方向分布

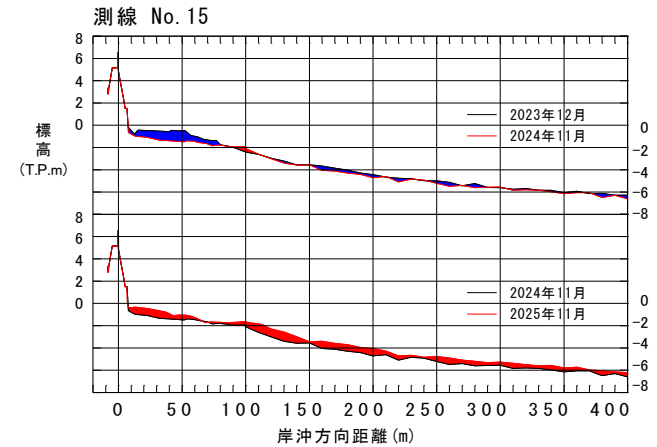
- ・ 相良片浜海岸の南側の砂浜が消失



■海浜断面変化

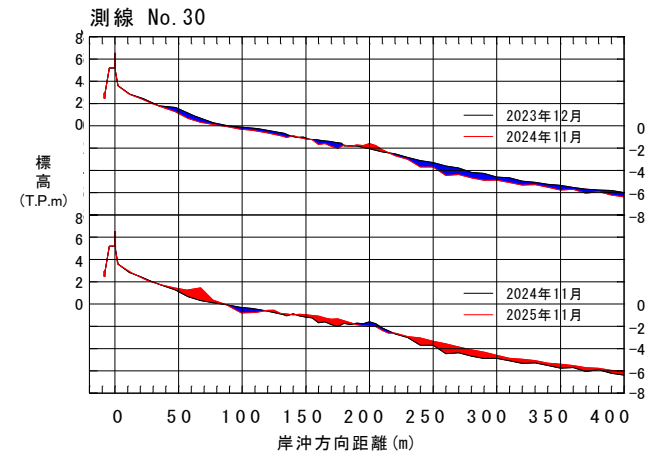
No.15（砂浜がほとんど消失した区間）

- ・ 汀線付近から水中部でやや堆積



No.30（砂浜が残っている地点）

- ・ 汀線付近から水中部でやや堆積

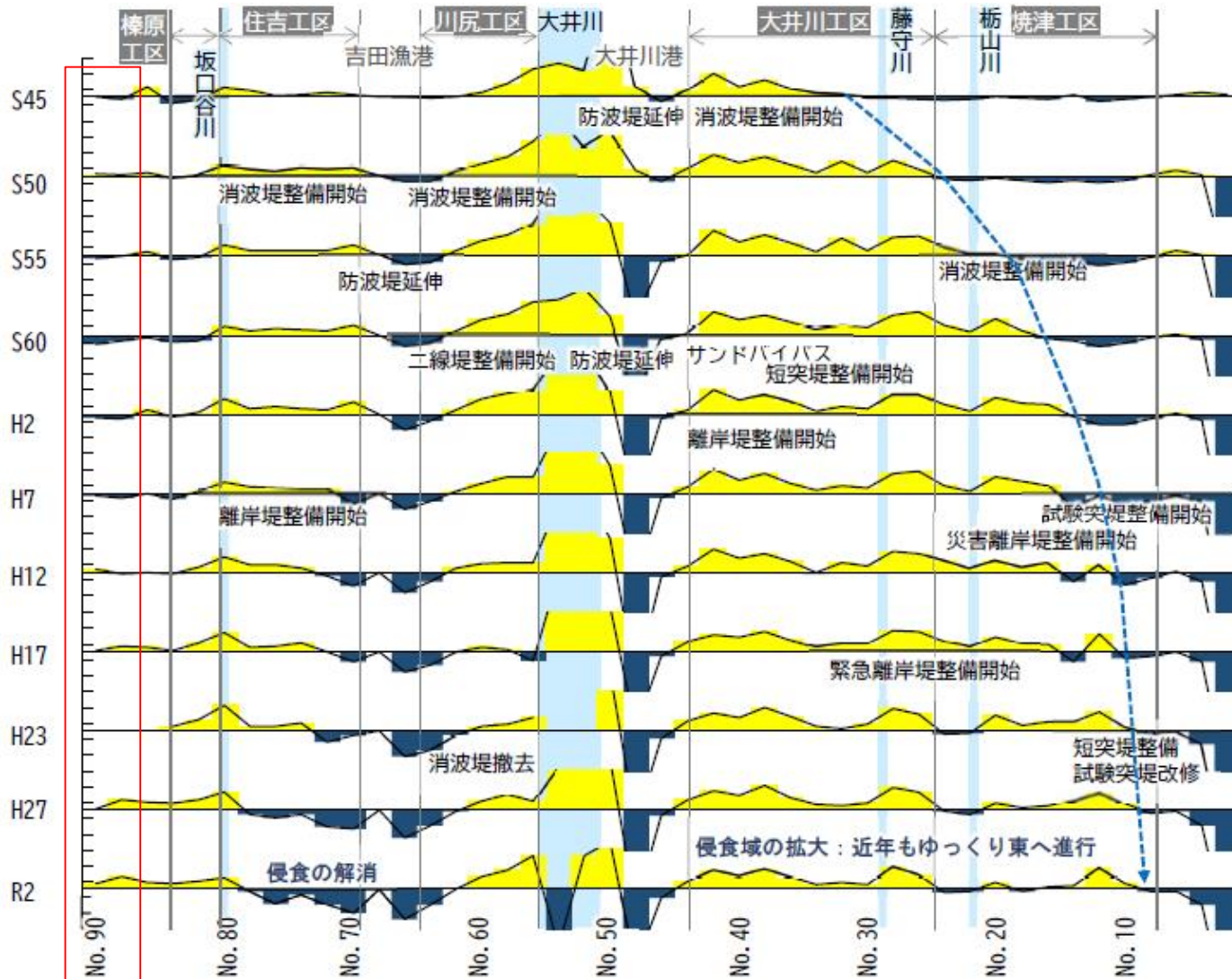


■榛原港海岸（静波海岸）の汀線変化

（第15回駿河海岸保全検討委員会 資料-3より抜粋）

・1965(S40)年以降の汀線変化によると、榛原港海岸（静波海岸）の汀線変化は小さい。
 ・勝間田川と坂口谷川浚渫土砂を用いた養浜が静波海岸等で実施されている。

榛原港海岸
（静波海岸）

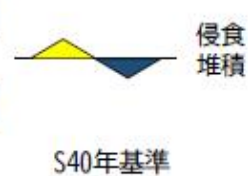
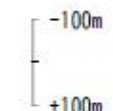


■勝間田川浚渫実績

年度	浚渫土量(m ³)	養浜先等
2013	4,200	静波海岸4,200m ³
2014	2,340	片浜海岸1,800m ³
2015	2,600	静波海岸2,600m ³
2016	1,900	静波海岸1,900m ³
2017	2,200	静波海岸2,200m ³
2022	3,200	静波海岸3,200m ³
2023	6,300	静波海岸6,300m ³

■坂口谷川浚渫実績

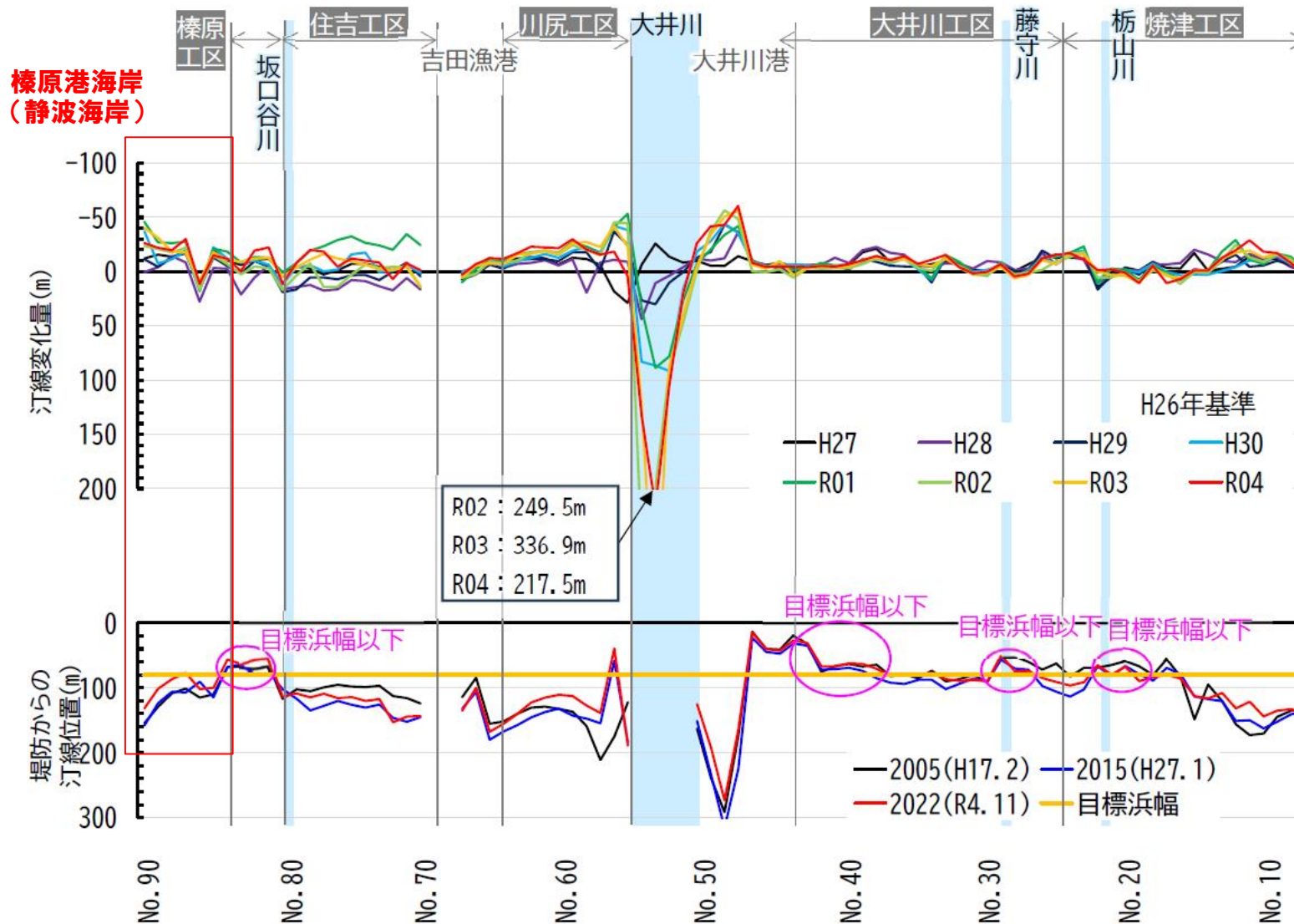
年度	浚渫土量(m ³)	養浜先等
2012	700	
2013	3,400	静波海岸3,400m ³
2014	2,100	静波海岸2,100m ³
2015	1,800	静波海岸1,800m ³
2016	8,860	片浜海岸6,500m ³
2019	7,500	
2021	3,300	



■榛原港海岸（静波海岸）の浜幅

（第15回駿河海岸保全検討委員会 資料-3より抜粋）

・2005年時と比べると、2022年時はやや浜幅が狭い状態であり、勝間田川付近の浜幅が約140m、北側の駿河海岸榛原工区との境界付近の浜幅が約60mの状態である。



■勉強会での意見

①浜岡海岸(浜岡砂丘)

- 浜岡砂丘の堆砂垣は、西風が吹いた時に堆砂垣の表裏に堆砂しそうなことが分かった。観光客が駐車場から砂丘に上がった時に、砂丘らしく、まん丸な姿に見えるような対策に変えていくべきである。
- 堆砂が進んでいることから、現在の堆砂垣設置方向が適していることが確認できた。
- 今回設置した場所の東側か、砂丘の東端側からのどちらからでもよいので、堆砂垣を増設していくことがよいのではないか。

②御前崎海岸(白羽地区)

- 白羽地区の砂がマリパーク御前崎に流出してしまうのは自然の姿である。できる限りコストを抑えて土砂をやりくりする必要がある。
- マリパーク御前崎の土砂を白羽地区に持ってくるのはよいが、コストがかかる。また、養浜材として投入する際に濁りが出るため、漁師から苦情があるとのことである。そこで、マリパークの砂を闇雲に移動させるのではなく、港湾側に常に砂が溜まる「砂溜まり」を作り、そこから良質な砂(飛砂として運ばれた粒径0.2mm程度の細砂)を採取すれば効率的ではないか。
- 現在はマリパーク御前崎の堆積土砂を白羽地区に養浜しているが、本来は砂が流れ着くはずであった相良海岸へ砂を供給することも検討していただきたい。港湾の北側は土砂の供給がなく、徐々に土砂が減少してしまうため工夫が必要がある。
- 現在は、海岸護岸の下に養浜材による浜崖ができており人が浜に降りられない。また、この浜崖はウミガメも上がれない。砂を投入する場所は、必ずしも護岸の前面に入れる必要はないのではないか。ウミガメの指定地なども考慮し、護岸際よりも漂砂上手(現在よりも西側、尾高周辺)で養浜すべきである。

意見交換等

- ウミガメについて御前崎市でも自然孵化を試みているが、浜砂が少ない。ウミガメが孵化するには、礫が細かいものじゃないと孵化しないという性質がある。
- ウミガメは安全な場所(植生帯の際)に産卵する。現在の白羽地区の護岸前面の崖地形では上陸できない。養浜を行う際は、ブルドーザーで作るような崖ではなく、1:5程度のなだらかな勾配のスロープにすると、産卵に一番適した空間ができる。ウミガメ保護活動が成立するように誘導していく必要がある。

③マリンパーク御前崎の対応状況等

【令和7年度の対応状況（実績）】

- 海浜部での浚渫0.7万m³を実施（白羽地区への養浜0.7万m³）
- 高波浪前後の地形変化把握のため、定点写真撮影を実施（R4.10月～）



浚渫箇所の状況 2024年6月19日撮影



浚渫箇所の状況 2024年11月4日撮影

【令和8年度以降の予定（案）】

- 御前崎海岸白羽地区の地形変化実態およびシミュレーション結果を基に、養浜計画と連携した浚渫土砂の活用方策の検討を進める。

④相良須々木海岸の対応状況等

【令和7年度の対応状況（実績）】

- ・ 海中養浜1.2万m³を実施（御前崎港航路浚渫土砂：御前崎港管理事務所）
- ・ 高波浪前後の地形変化把握のため、定点写真撮影を実施：相良須々木海岸（R4.9月～：島田土木）、相良港海岸須々木地区（R4.10月～：御前崎港管理事務所）



相良須々木海岸（地代川水門付近から北側）2025年9月7日撮影
（潮位T.P. +0.56~0.77m（御前崎））

【令和8年度以降の予定（案）】

- ・ 定期の空中写真・深浅測量等のモニタリングに加えて、定点写真撮影を継続し、対策の必要性を確認する。

⑤相良片浜海岸の対応状況等

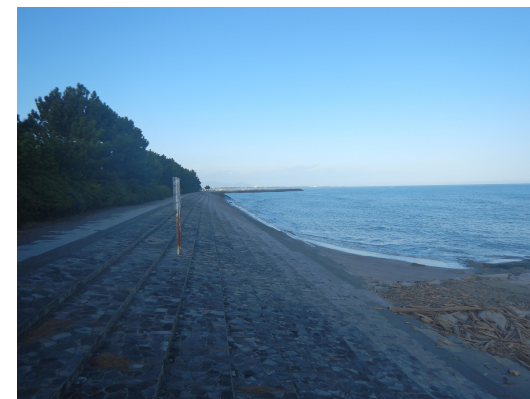
【令和7年度の対応状況(実績)】

- 高波浪前後の地形変化把握のため、定点写真撮影を実施：相良片浜海岸 (R4. 9月～：島田土木)、相良港海岸片浜地区 (R4. 10月～：御前崎港管理事務所)
- 簡易GPSによる汀線観測を実施：相良片浜海岸 (島田土木)



相良港海岸片浜地区
(突堤北側)

2024年11月4日撮影
(潮位T. P. +1. 24m (御前崎))



相良片浜海岸
(片浜25号ゲートから南側)

2024年11月4日撮影
(潮位T. P. +1. 24m (御前崎))

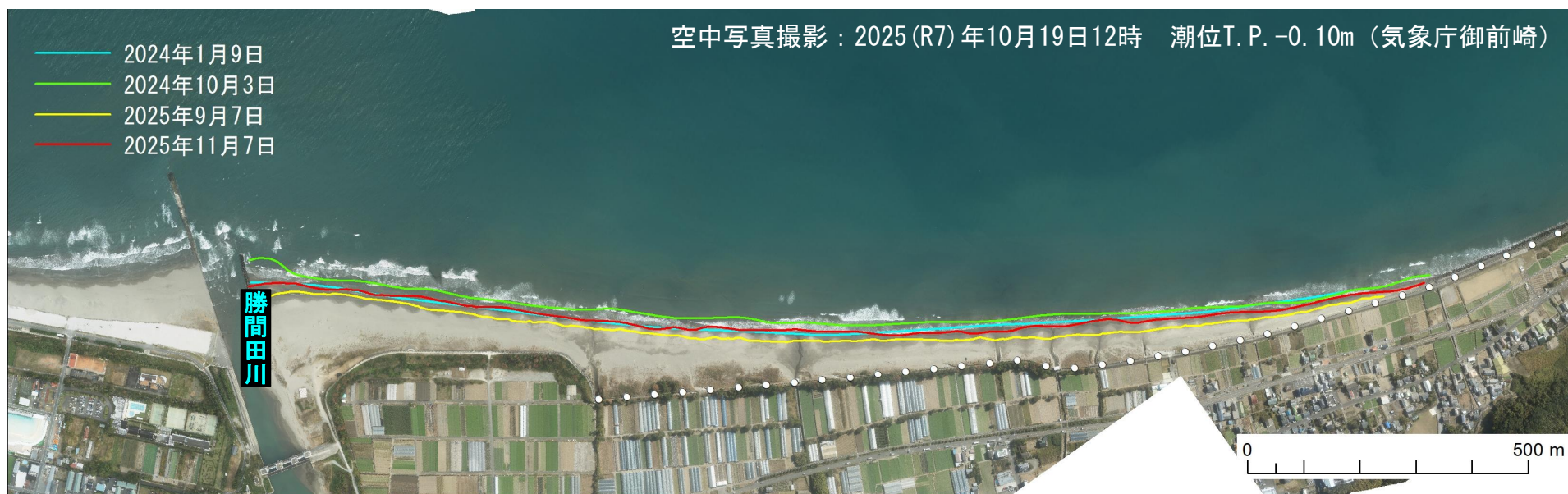


⑤相良片浜海岸の対応状況等

【令和7年度の対応状況（実績）】

- 高波浪前後の地形変化把握のため、簡易GPSによる汀線観測を実施：相良片浜海岸（R7.9月、11月：島田土木）。2024年と比べて2025年11月は砂浜幅は同程度であり、侵食箇所は見られない。

GPS汀線観測：	2024 (R6) 年 1月 9日11時	潮位T. P. +0.21m	(気象庁御前崎)
	2024 (R6) 年10月 3日10時	潮位T. P. -0.07m	(気象庁御前崎)
	2025 (R7) 年 9月 7日17時	潮位T. P. +0.77m	(気象庁御前崎)
	2025 (R7) 年11月 7日12時	潮位T. P. +0.06m	(気象庁御前崎)



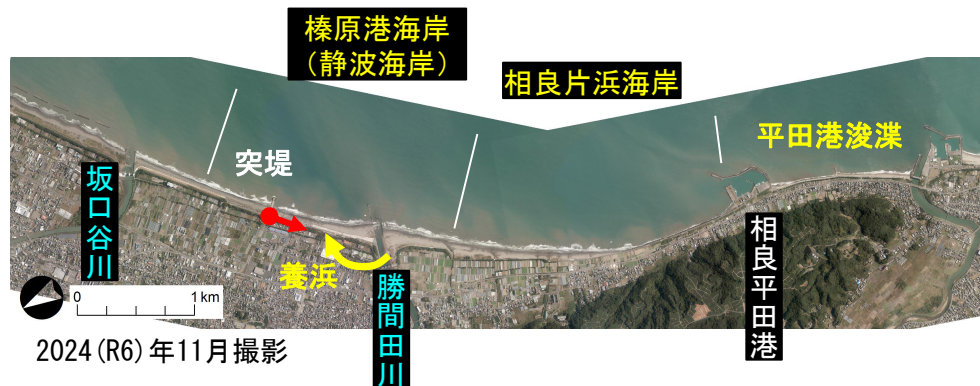
【令和8年度以降の予定（案）】

- 定期の空中写真・深淺測量等のモニタリングに加えて、定点写真撮影、簡易GPS汀線観測を継続し、対策の必要性を確認する。

⑥ 榛原港海岸(静波海岸)の対応状況等

【令和7年度の対応状況（実績）】

- 養浜0.4万 m^3 （勝間田川浚渫土砂：島田土木）。
- 高波浪前後の地形変化把握のため、定点写真撮影を実施：榛原港海岸(R4.10月～：御前崎港管理事務所)



静波突堤から南側 2024年11月4日撮影（潮位：T.P.+1.43m（御前崎））

【令和8年度以降の予定（案）】

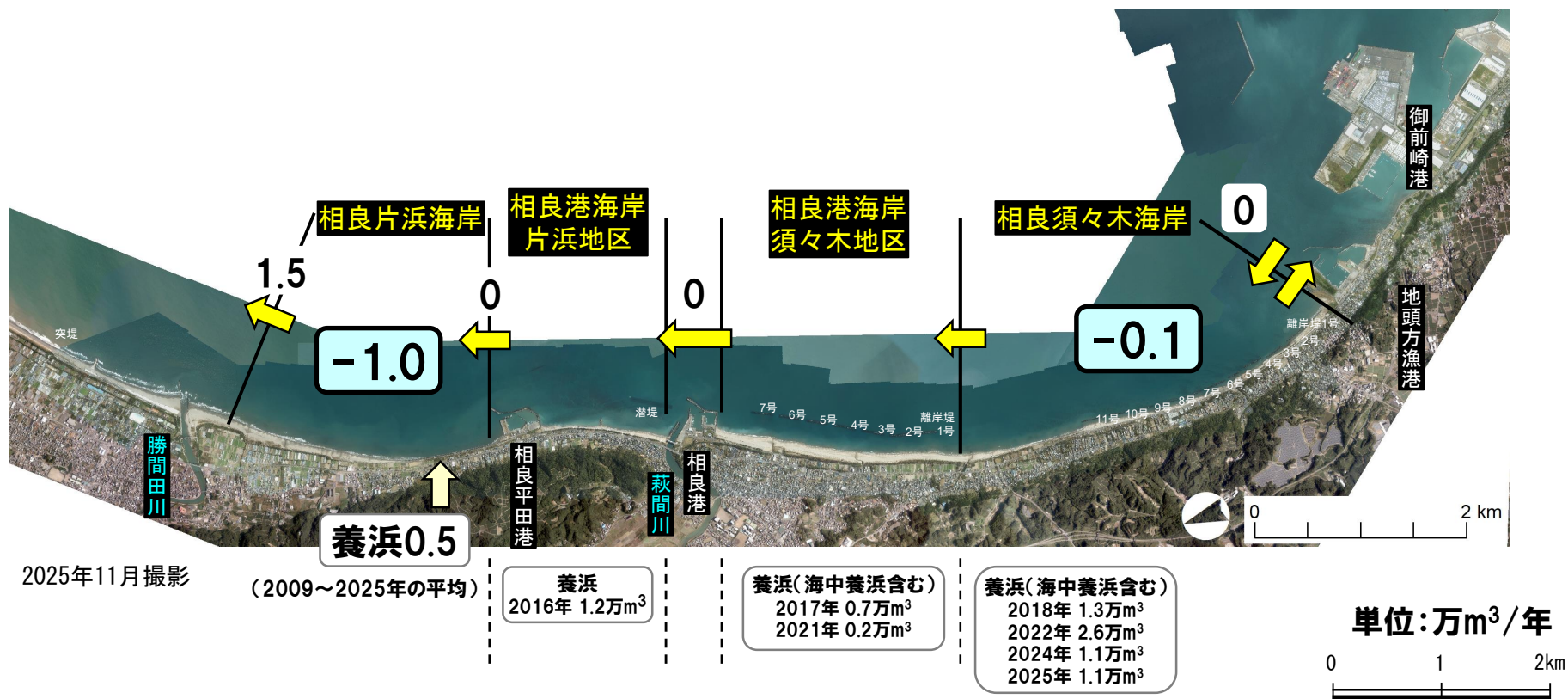
- 養浜実施前後等の海水浴場前面の底質の変化状況等を把握するため、定点写真撮影を継続する。

④相良須々木海岸、⑤相良片浜海岸の土量変化

- ・ 今後の養浜計画の検討等に際して、各海岸の土量変化解析より区分毎の傾向値(万m³/年)を算出した。なお、傾向値についてはモニタリングにより見直し・更新を行う。

【長期変化】(深淺測量開始時期～現在)

- ・ 相良須々木海岸: 深淺測量による1990～2025年(35年間)の海浜断面積変化量(算出範囲T.P.+2～-4m)から算出
- ・ 相良片浜海岸 : 深淺測量による2009～2025年(16年間)の海浜断面積変化量(算出範囲T.P.+2～-5m)から算出



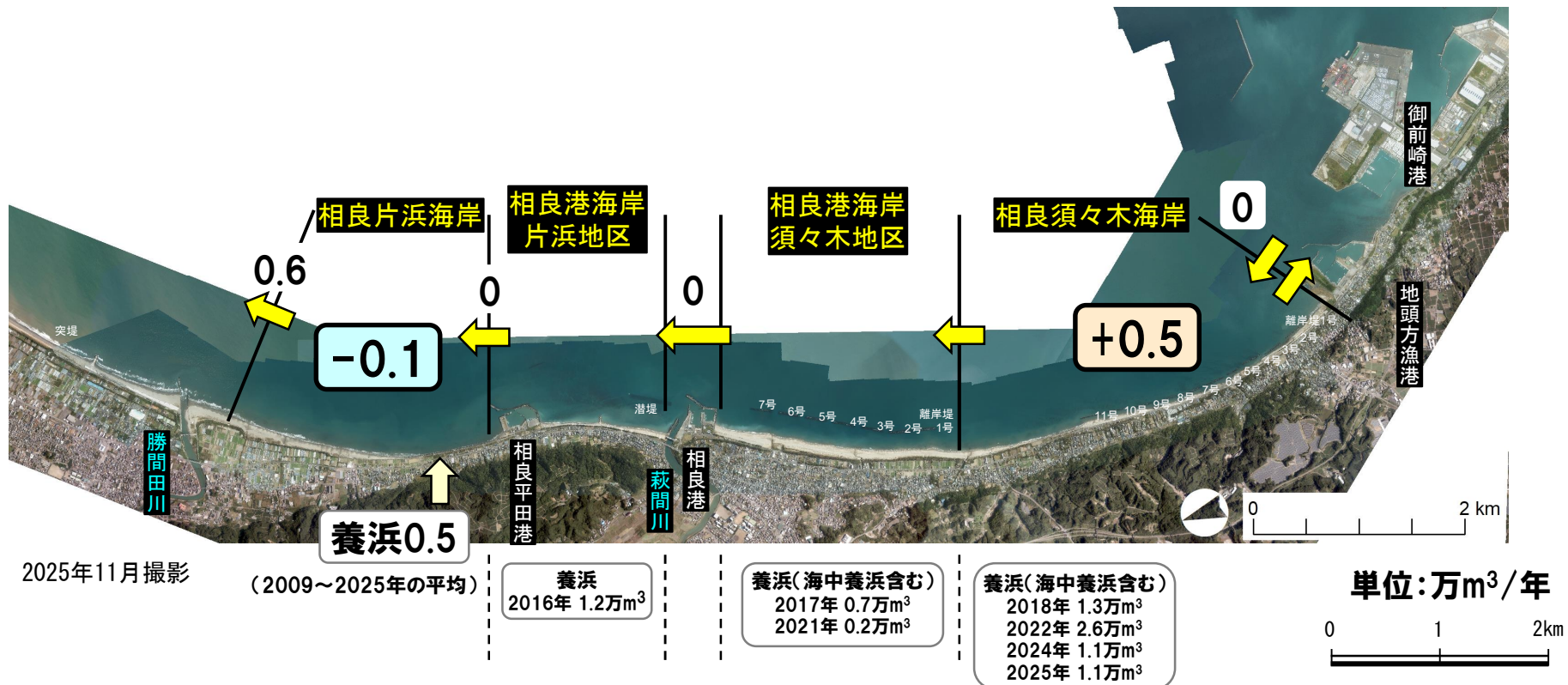
④相良須々木海岸、⑤相良片浜海岸の土量変化

- 今後の養浜計画の検討等に際して、各海岸の土量変化解析より区分毎の傾向値(万m³/年)を算出した。なお、傾向値についてはモニタリングにより見直し・更新を行う。

【最近の変化】(2012年～現在)

※2011年台風15号来襲時に広域に侵食が生じており、来襲後以降の地形変化を把握した。

- 相良須々木海岸: 深浅測量による2012～2025年(13年間)の海浜断面積変化量(算出範囲T.P.+2～-4m)から算出
- 相良片浜海岸: 深浅測量による2012～2025年(13年間)の海浜断面積変化量(算出範囲T.P.+2～-5m)から算出

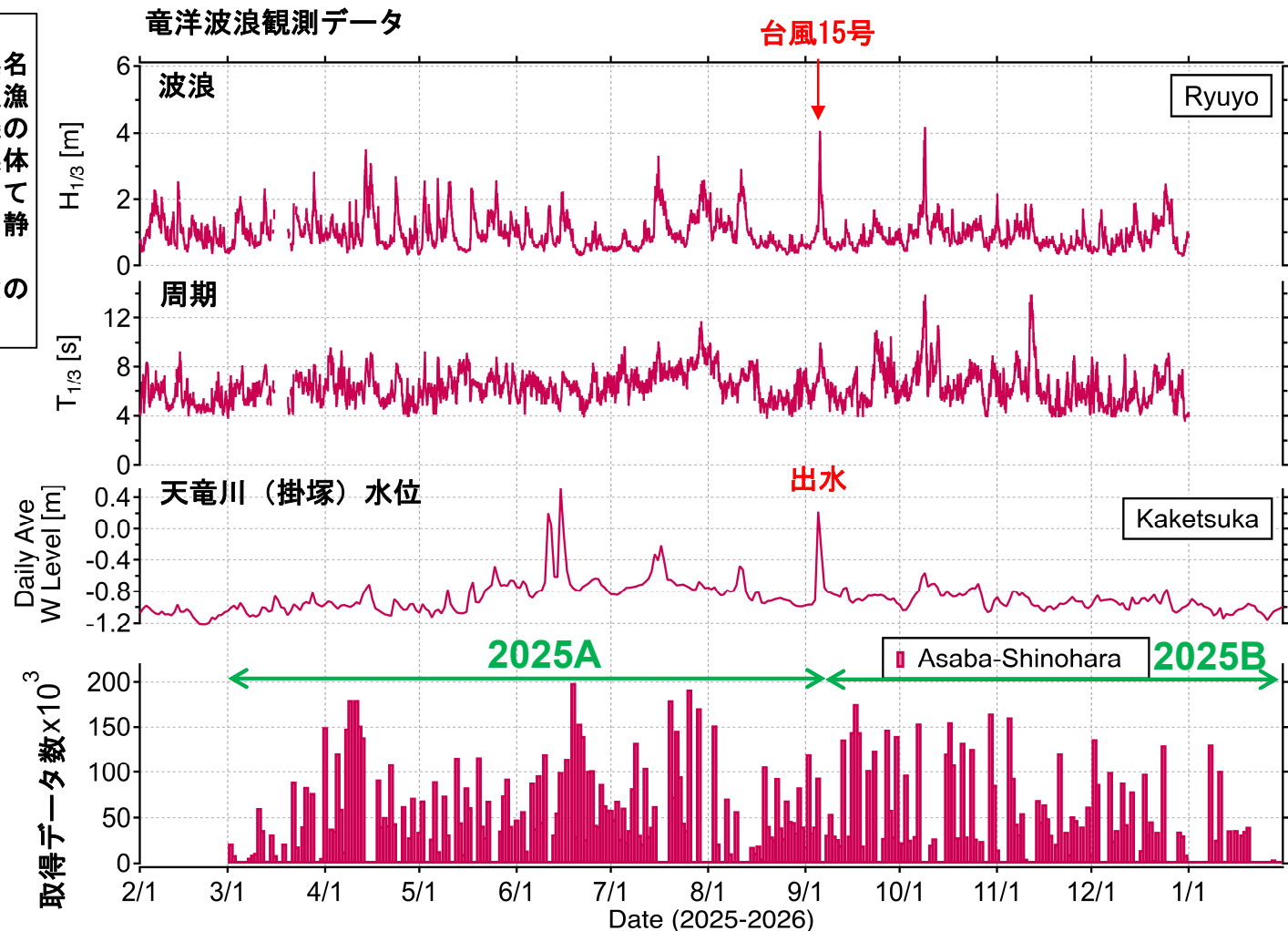


2025年台風15号による出水・高波浪前後、1年間の地形変化

- ・ 台風15号時の9/5に竜洋観測所にて有義波高4.07mを観測した（波高3m以上の継続時間は約9時間）。また、天竜川でも中規模の出水が生じた。
- ⇒上記から、漁業と連携した海底地形調査の結果を台風15号前後に区分して整理し、台風15号前後の地形変化を確認した。（2025(R7)年は、例年に比べ、天竜川の出水規模は小さく、高波浪の頻度や継続時間も少ない。）

■2025(R7)年の有義波高、有義波周期、波向、潮位の時系列（波浪：竜洋観測所、潮位：舞阪検潮所）

【漁業と連携した海底地形調査】
 この調査は、遠州漁協および浜名漁協所属のシラス漁船および遊漁船で使用されている魚群探知機の水深・位置データを外部記録媒体に記録し、深淺データを作成しているものである。（三重大学と静岡県が協働で実施）
 漁が行われている期間内で任意の時期を抽出できる。

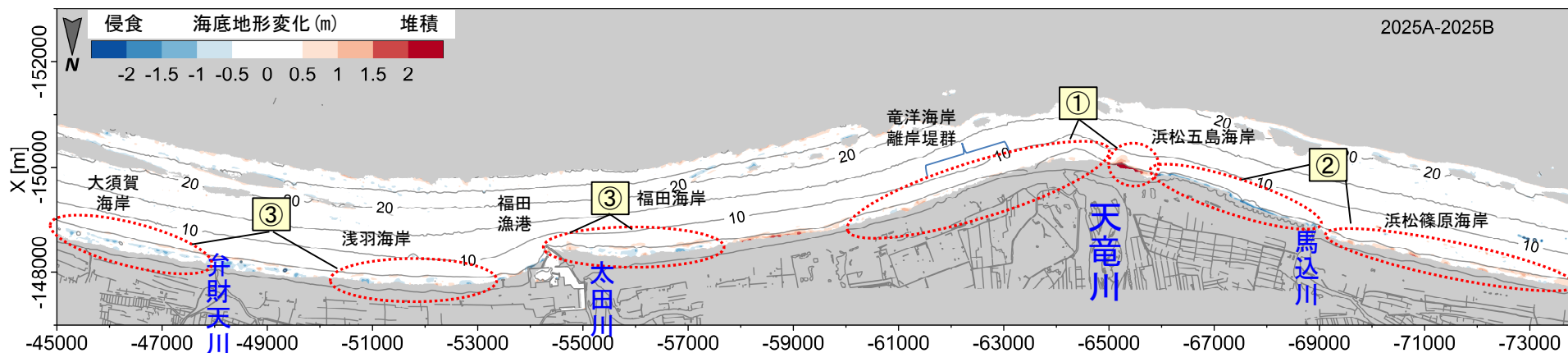


2025年台風15号による出水・高波浪前後、1年間の地形変化(広域:浜松篠原海岸～大須賀海岸)

◆2025A-2025B (台風15号 (9/5) による出水・高波浪前後の地形変化)

- ①天竜川河口部の右岸河口砂州の水深5m付近で堆積(浜松五島海岸突堤東側)が見られた。また、左岸側では堆積等は見られない。
- ②浜松五島海岸の離岸堤群沖側の水深5m付近で帯状に侵食が見られた。また、浜松篠原海岸の水深5m以浅ではやや堆積が見られた。
- ③竜洋海岸、福田海岸、浅羽海岸、大須賀海岸の地形変化は少ない。

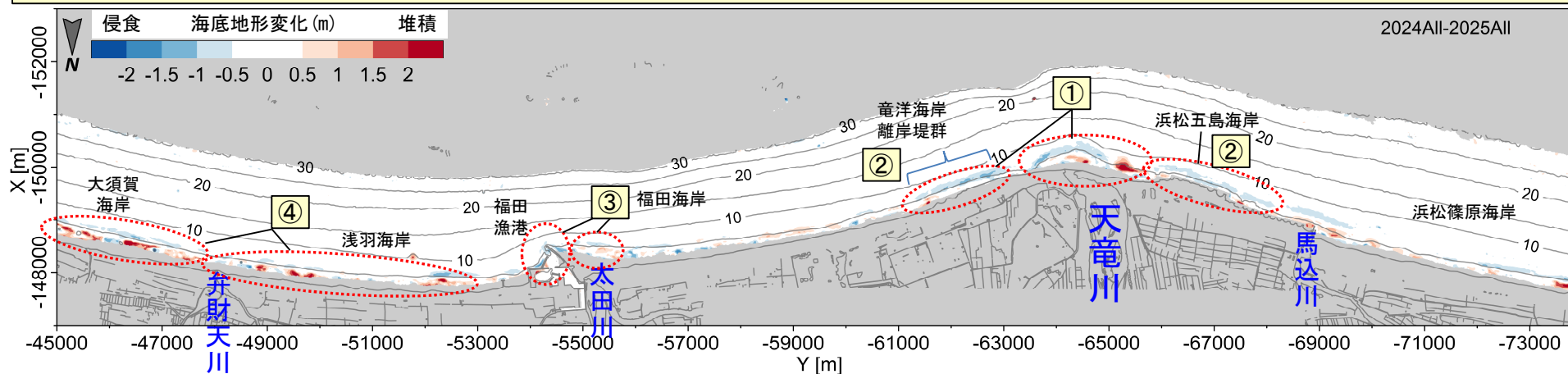
→出水により天竜川河口右岸側でやや堆積が見られるが、海岸域への供給土砂は比較的少なく、台風前後での高波浪による地形変化も少ない。



◆2024ALL-2025ALL (1年間の地形変化)

- ①天竜川河口部の右岸河口砂州の水深5m付近で堆積(浜松五島海岸突堤東側)、左岸河口砂州(竜洋海岸境界付近)の水深5m付近で侵食が見られた。
- ②浜松五島海岸と竜洋海岸の離岸堤群沖側の水深5m以浅で帯状にやや侵食が見られた。
- ③福田海岸の水深5m以浅でやや堆積が見られ、福田漁港周辺はやや侵食が見られた。④浅羽海岸と大須賀海岸では堆積の割合が多い。

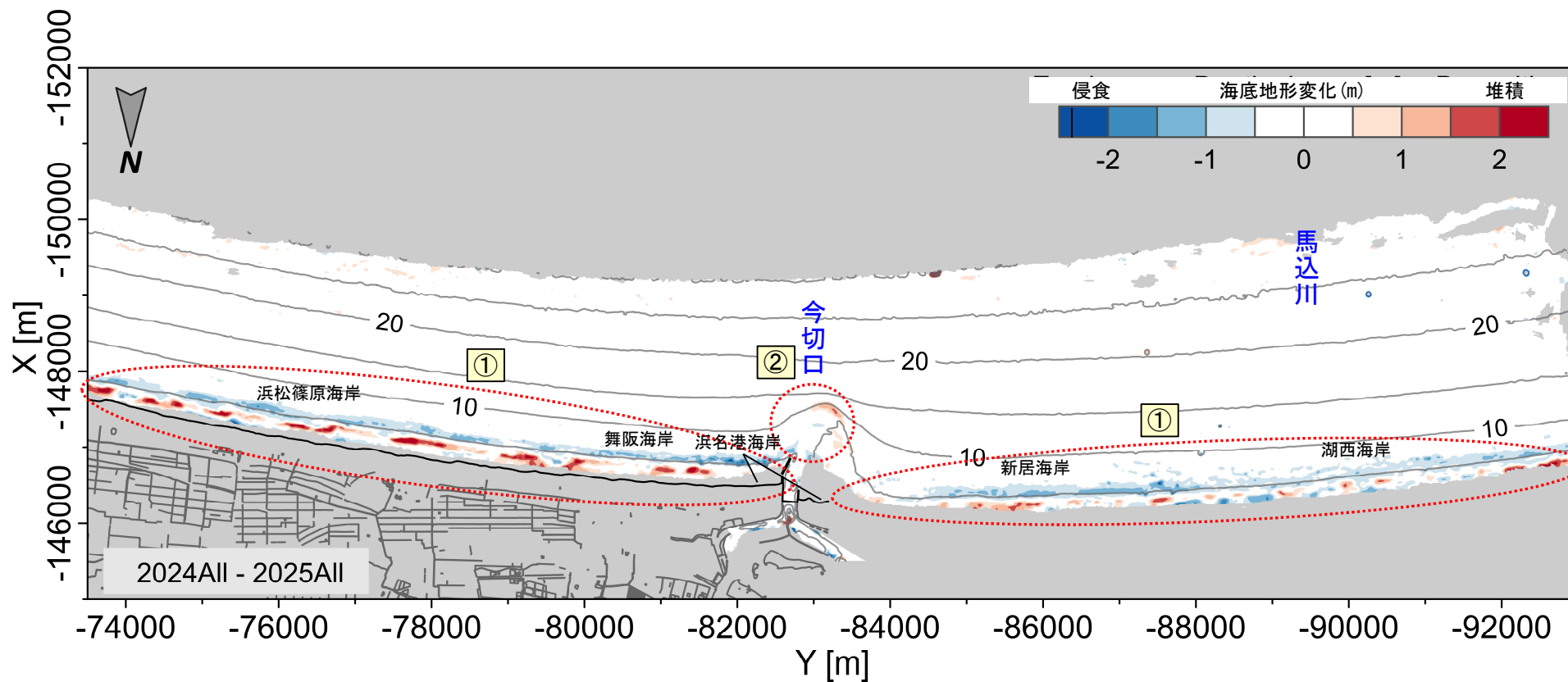
→天竜川河口部および浜松五島・竜洋海岸の水深5m以浅は侵食の割合が多いため、河口部と海岸域への供給土砂は比較的に少ない。また、台風時の高波浪による地形変化への影響も少なかったものと考えられる。



1年間の地形変化(広域:浜松篠原海岸～湖西海岸)

◆2024ALL-2025ALL (1年間の地形変化)

- ①浜松篠原海岸から湖西海岸にかけての広域で水深5m以深でやや侵食、水深5m以浅でやや堆積が見られるが、比較的に地形変化は少ない。
 - ②今切口沖の水深10m地点ではコンターが沖向きに張り出した方向に堆積している。
- 区間全体として、西側の浜松五島海岸・浜松篠原海岸と同様に1年間の地形変化は比較的に少ない。



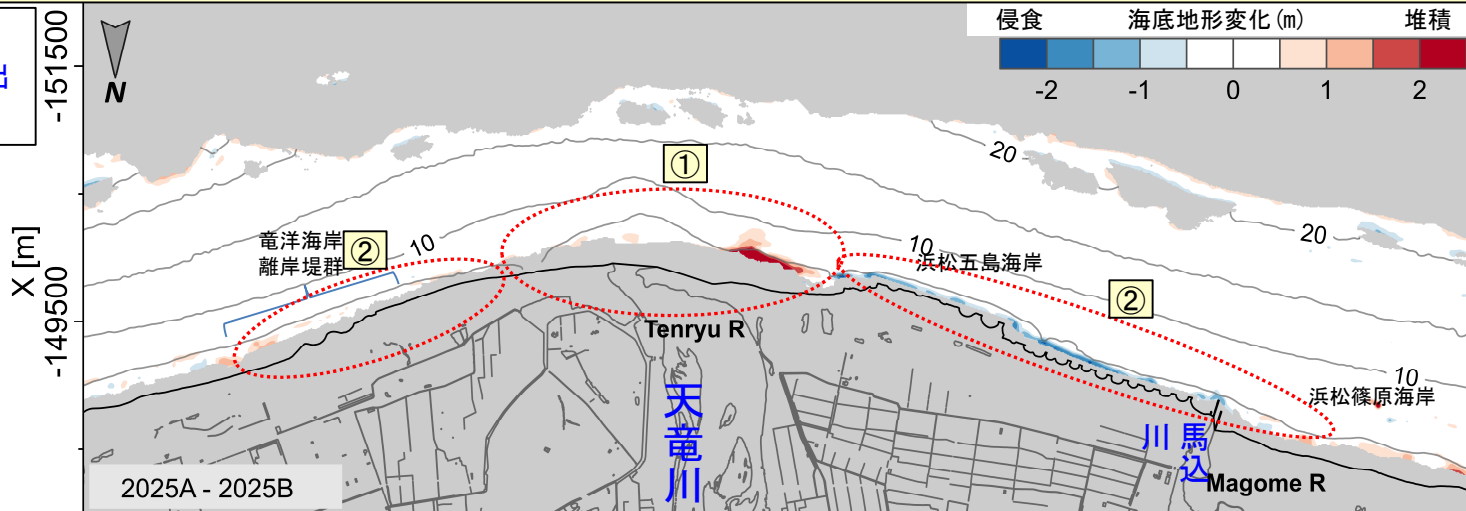
漁業と連携した海底地形調査

2025年台風15号による出水・高波浪前後、1年間の地形変化(天竜川河口部:浜松篠原海岸～竜洋海岸)

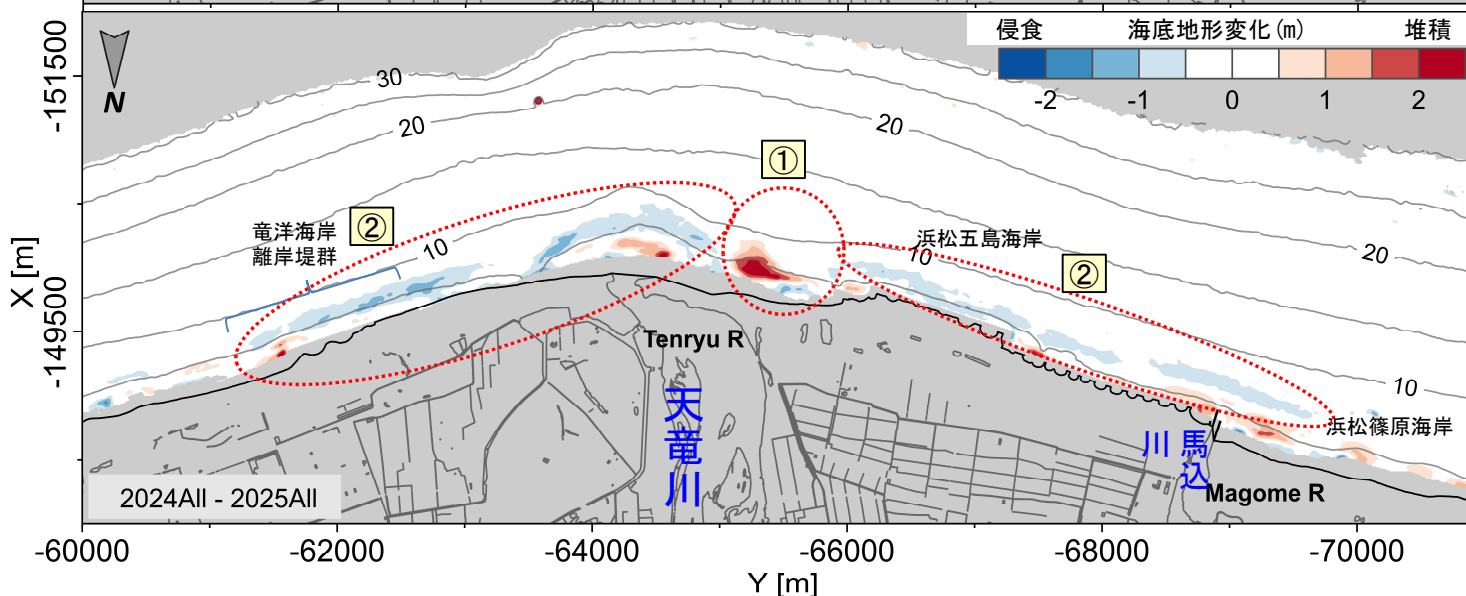
◆2025A-2025B (台風15号 (9/5) による出水・高波浪前後の地形変化) ①天竜川河口部の右岸河口砂州の水深5m以浅で堆積(浜松五島海岸突堤東側)が見られた。また、河口左岸側では堆積等は見られない。②浜松五島海岸の消波施設沖側でやや侵食が見られ、竜洋海岸での地形変化は少ない。以上より、台風15号前後では、海岸域への供給土砂は比較的少なく、高波浪による地形変化も少ない。

◆2024ALL-2025ALL (1年間の地形変化) ①右岸河口砂州の水深5m以浅で堆積が見られた。②河口沖から左岸河口砂州(竜洋海岸境界付近)と竜洋海岸の離岸堤群沖側、浜松五島海岸の離岸堤群沖側の水深5m以浅で帯状にやや侵食が見られた。→水深5m付近は侵食の割合が多いため、河口部と海岸域への供給土砂は比較的少ない。また、台風時の高波浪による地形変化への影響も少なかったものと考えられる。

2025A-2025B
(台風15号 (9/5) による出水・高波浪前後の地形変化)



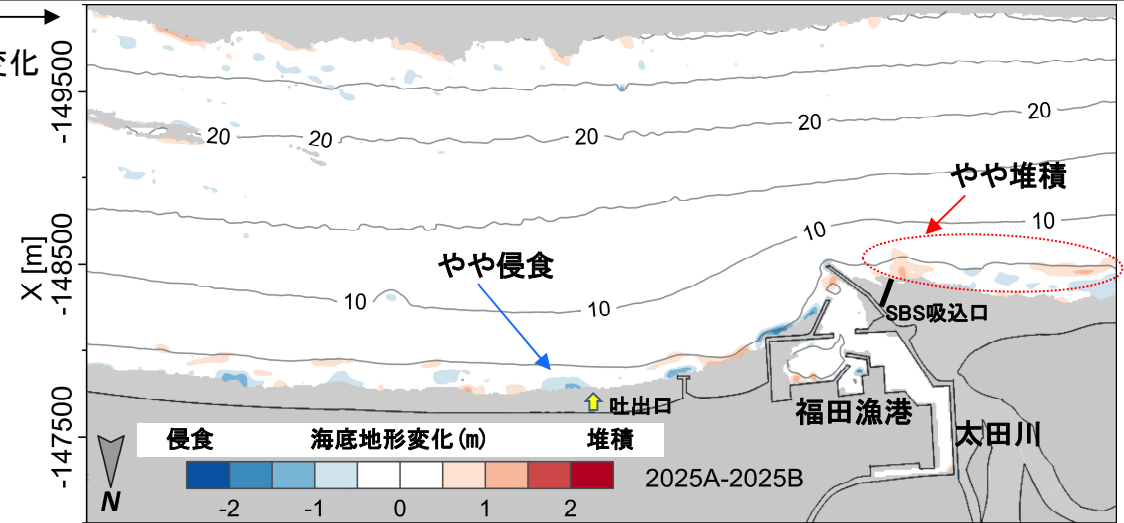
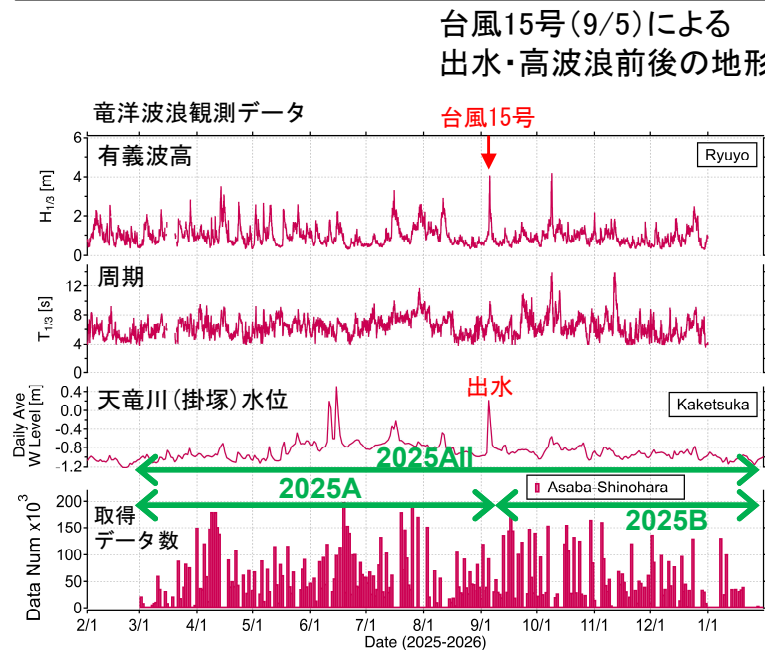
2024ALL-2025ALL
(1年間の地形変化)



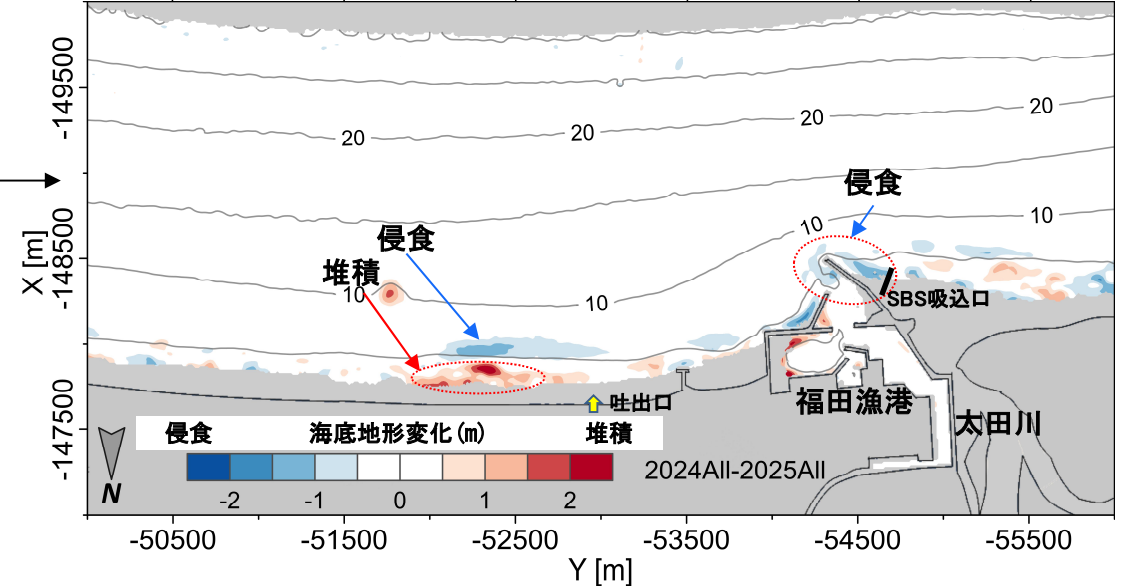
漁業と連携した海底地形調査

2025年台風15号による出水・高波浪前後、1年間の地形変化(福田漁港周辺)

- ◆2025A-2025B(台風15号(9/5)による出水・高波浪前後の地形変化) 台風15号前後は、福田海岸～サンドバイパスシステム(SBS)吸込口にかけてやや堆積が見られる。また、浅羽海岸の吐出口の東側ではやや侵食が見られる。台風15号時の有義波高は4.07mと比較的に小さいため、地形変化も少ない状況であった。
- ◆2024ALL-2025ALL(1年間の地形変化) 2025(R7)年は波浪の静穏が続いたため、1年間の水深変化は例年に比べて少ない。SBS吸込口から港口にかけてやや侵食(維持浚渫を実施)。また、浅羽海岸の吐出口の東側では水深5m以深で侵食、水深5m以浅で堆積が見られ、バー地形の岸側への移動等が生じているものと考えられる。



1年間の水深変化
(2024年-2025年:1年間)



【漁業と連携した海底地形調査】
この調査は、遠州漁協および浜名漁協所属のシラス漁船および遊漁船で使用されている魚群探知機の水深・位置データを外部記録媒体に記録し、深浅データを作成しているものである。(三重大学と静岡県が協働で実施) 漁が行われている期間内で任意の時期を抽出できる。

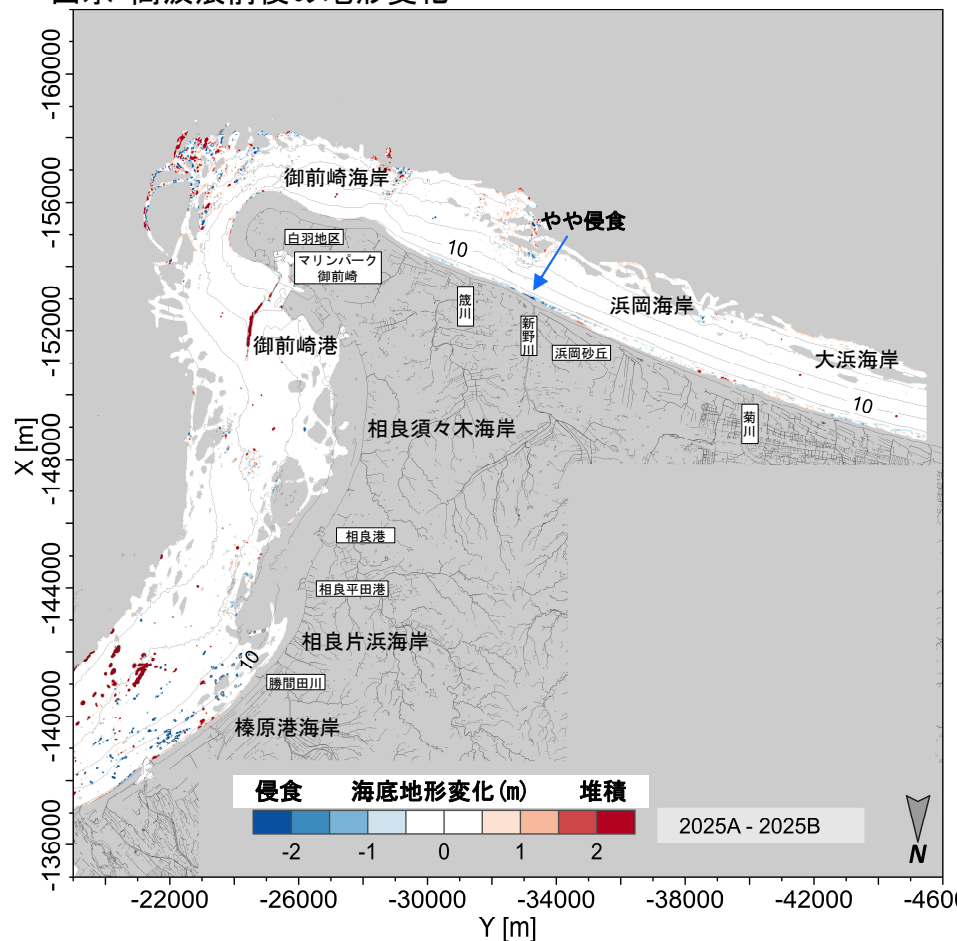
2025年台風15号による出水・高波浪前後、1年間の地形変化(御前崎海岸周辺)

- 南駿河湾漁業協同組合に所属するシラス漁船（御前崎港および地頭方漁港より出航）において、2020年より11隻で調査を開始
- 御前崎周辺は、データ量や操業頻度、海象条件を考慮してデータセットを作成(2025年台風15号の前後で区分)

◆2025A-2025B(台風15号(9/5)による出水・高波浪前後の地形変化) 台風15号前後で、大浜海岸～御前崎海岸での地形変化は少ない。新野川左岸の浜岡海岸(浜岡原発沖側)の水深5m以浅でやや侵食が見られる。なお、相良海岸周辺では水深5m付近での漁船の航行が少なく地形変化図作成は行っていない。

◆2024ALL-2025ALL(1年間の地形変化) 2025(R7)年は波浪の静穏が続いたため、1年間の水深変化は例年に比べて少ない。菊川右岸、浜岡砂丘前面、白羽地区の水深5m以浅でやや堆積が見られる。

台風15号(9/5)による
出水・高波浪前後の地形変化



1年間の水深変化
(2024年-2025年:1年間)

